

最上川さみだれ大堰のゲートが起立しました

最上川さみだれ大堰では、最上川の水位が低下したのに伴い、5月22日より堰のゲートを起立しました。

ゲートを起立することにより、農業用水の安定取水確保が可能となり、庄内平野の約3割10,700haを潤します。

- 1) さみだれ大堰では、5月20日より、年当初のゲートの試験操作を行いました。その結果、ゲートが正常に作動し、設備にも異常はありませんでした。
- 2) 天候不良（雨と低温）により農作業が例年より遅れており、さみだれ大堰から取水している最上川取水口（かんがい面積 5,669ha）及び草薙頭首工（かんがい面積 5,034ha）の管理者からの要請があることから、試験操作終了（5月22日17時）に引き続きゲートを起立しました。
- 3) さみだれ大堰のゲートは、かんがい期の9月15日まで起立を継続します。ただし、降雨により最上川の水位が上昇すると予想される場合は、事前にゲートを倒伏し洪水に備えます。そのときは、堰周辺および下流河川の水位が変化しますので、河川を利用する場合はご注意願います。

(発表記者会)酒田記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省酒田河川国道事務所

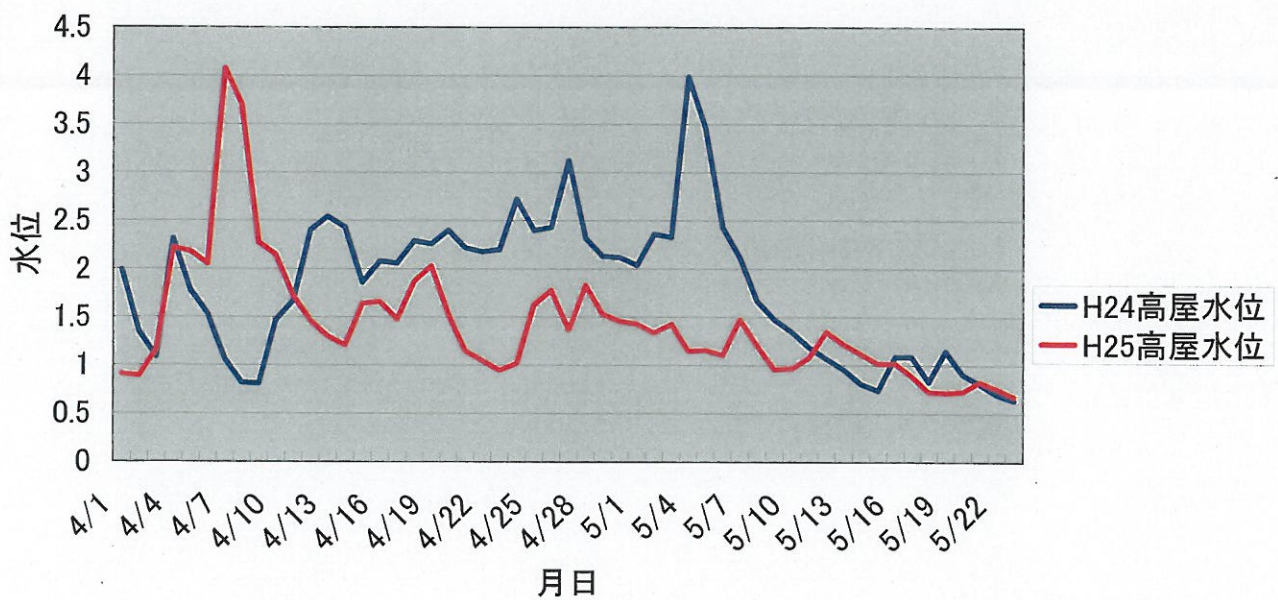
副所長（河川担当） 阿部富雄 0234（27）3331

堰管理専門官 須田 均 0234（27）3497



ゲートが起立した 最上川さみだれ大堰（5月23日）

高屋水位観測所



※ 最上川の水位が低下したため、堰ゲートの起立が可能となりました。（上記：堰上流の「高屋水位観測所」データ）